

イマジネーション クリエーション
想像と創造

画家・三井永一の仕事

平成29年4月1日(土) ~ 4月26日(水)

原画や掲載誌面、参考資料などを貴重面に整理して保管。新聞連載や雑誌連載の挿絵をいくつも抱え、遠出もままならない時期もあった。手元にあった挿絵原画は、晩年に作家本人や文学館・記念館に寄贈したものも多く、原画のコピーや雑誌の切り抜きがスクラップとして残る。



制作の現場であり、創造のために大切な思考空間。画家の仕事場には表現者に必要な様々な道具、資料、想像力を喚起させるあらゆるモノが収められています。鶴岡出身の三井永一画伯は、洋画家として油彩画・版画作品が広く知られますが、一方で挿絵やカット・イラストも数多く手掛けました。時代小説・ミステリー・評伝・歌舞伎ほか、多様なジャンルを驚くほどの表現力で描きわけています。

画家の仕事は描くこと。ただこれだけに真摯に向き合い続けた画家。本展では、近年受贈した約3,800点の挿絵原画、約200点の油彩画・リトグラフなどから、200点余を展示し、画家の軌跡をたどります。

挿絵の仕事



様々なタッチで描かれた挿絵や巻頭カット、イラストなど。ペン・絵具・墨彩・スクラッチボードなど、様々な画材を使い分けて描いており、小説作品や雑誌の世界観をより豊かにしている。

絵画の仕事



「貯水池」(油彩画)
 (昭和56年制作、F30号、第58回春陽展出品)



「白い2つの塔B」(油彩画)
 (昭和35年制作、F20号、第37回春陽展出品)

版画の仕事



「花の木」(リトグラフ)
 (平成2年制作、春陽会版画展出品)



「星月夜」(リトグラフ)
 (平成8年制作、春陽会版画展出品)



「DUO」(リトグラフ)
 (平成14年制作、第79回春陽展出品)

人をみつめる仕事

戸板康二「せいいたく列伝」(「別冊文藝春秋」初出)に掲載された人物挿絵の一部



本の世界・蔵書票の仕事



題材・画風・文字・紙質など、依頼主の要望に応じて制作された蔵書票

三井永一画伯略歴

鶴岡市生まれ(1920-2013)。市立朝陽第二小学校、鶴岡中学校を卒業後に上京。川端画学校、春陽会洋画研究所に学び、木村莊八、中川一政、岡鹿之助らに師事した。昭和14年(1939)に文展(現日展)に初入選、春陽会を拠点に活動し、春陽会版画部の設立にも携わる。油彩画、版画、ガラス絵など、数多くの作品を制作した。国際アートクラブ会員、日本ガラス絵協会会員。挿絵では、早乙女貢、柴田錬三郎、池波正太郎、横溝正史、宇野千代らの作品を手がけ、昭和46年(1971)に講談社出版文化賞(挿絵部門)を受賞。

公益財団法人 致道博物館 交通案内

〒997-0036
 鶴岡市家中新町10-18
 TEL:0235-22-1199
 FAX:0235-22-3531
<http://www.chido.jp/>
 E-mail:chido@axel.ocn.ne.jp

- 所要時間の目安
- JR鶴岡駅よりバス10分
 - 「致道博物館前」下車徒歩2分
 - 山形自動車道鶴岡ICより車で5分
 - 庄内空港より車で20分

